

宮城県は23日、石巻市、東松島市、女川町にまたがる石巻ブロックの災害廃棄物処理業務の受託候補者について、鹿島建設東北支店を代表とする9社の特定建設工事共同企業体（JV）に決定したと発表した。県との本契約は議会報告後の9月中旬になる見込み。同ブロックでは、県

巨理名取でも 企画提案を募集

内4ブロックのうち最大規模の災害廃棄物約746万3000ト、津波堆積物約380万立方メートルが発生している。このほか、県では25日から、巨理名取ブロックの災害廃棄物処理業務の企画提案（プロポーザル方式）の募集も始まっている。（関連記事5面に掲載）

石巻ブロックのJV木くすについては、県は鹿島建設のほか、▽清水建設東北支店▽西松建設東北支店▽佐藤工業東北支店▽飛島建設東北支店▽竹中土木東北支店▽若築建設東北支店▽橋本店▽遠藤興業、で構成。契約価格は2000億円前後とみられる。県との本契約が締結された後、JVは二次仮置き場予定地の石巻港雲雀野地区（68ト）に数基の仮設焼却炉や破碎設備などを設置する。再生利用が可能なる河北地区については、

鹿島建設JVに業務委託 石巻ブロックの災害廃棄物

宮城県



二次仮置き場予定地の雲雀野地区（8月4日撮影）

物が発生している。県の推計では、同ブロックの災害廃棄物の発生量は可燃・不燃物合わせ、石巻市538万3000ト、東松島市156万8000ト、女川町51万2000トとなる。これは、▽気仙沼ブロック（気仙沼

ゼネコンへの 委託増える

方式の募集を始めた。津波堆積物は同255万3000立方メートル（県企画提案の受付は来月8日まで。審査結果は来月下旬から10月上旬に公表される。今回の発注は、各市町村ごとに設定した「処理」単位で行われる。業務期間は2014年3月25日まで。事業規模は、名取市が約203億円（税込）、岩沼市が約297億円（同）、巨理町が約679億円（同）、山元町が約414億円（同）となる。災害廃棄物は巨理名取ブロック全体で298万7000ト（環境省推計値、県の推計は303万4000ト）、急・一次仮置き場の廃棄物の一部を直接、再生利用先または最終処分場に委託する。災害廃棄物の処理が終わった後、二次仮置き場に設置したすべての構造物を解体・撤去する。参加資格は3社以上で構成する特定業務共同企業体などが求められる。石巻ブロック以外の事例を見ても、これまで、多賀城市で鴻池組東北支店、福島県相馬市でフジタ東北支店が業務受託者に決定している。今後もしゼネコン（総合建設会社）を代表としたJVの落札が増えそうだ。